

## 令和3年度

- 4月
- 4～5月
- 6～7月
- 7～8月

- ・常設展「カメラがとらえた久留米の100年 私の街私の時代」
- ・「オリンピック・パラリンピックと人権」パネル展／人権啓発センター
- ・常設展「カメラがとらえた久留米の100年 私の街私の時代」
- ・図書譲渡会

10～11月

- ・久留米入城400年記念 発掘でよみがえる久留米城下町展



令和10月1日(金)～11月3日(水・祝)

※新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言のため、8月21日(土)開会の予定が延期されました。

令和3年(2021)は、初代久留米藩主の有馬豊氏が丹波福知山(現・京都府福知山市)から久留米に初めて入城して400年の節目にあたります。

これ以降、城と城下町の大改造工事が開始され、約80年の歳月をかけて街並みの基本が完成しました。

しかし、明治4年(1871)に廃藩置県、同22年に市制施行されると、旧城下町にも近代化の波が押し寄せました。昭和20年(1945)8月11日の空襲では市街地が焼失し、往時を偲ぶ街並みはほとんど失われてしまいました。

一方、平成元年(1989)より開始された城下町の発掘調査では、地下の遺構や遺物が良好な状態で残されていることが判明しています。本展示では、発掘調査によって明らかとなった、城下町の成り立ちや人々の生活について、出土品をはじめとする様々な資料から照らし出します。

11～3月

- ・むかしのくらし展「昭和のあそび」



令和3年11月20日(土)～令和4年3月21日(月・祝)

令和3年度むかしのくらし展は、「あそび」がテーマです。

昭和は、第2次世界大戦や高度成長期を経て、生活スタイルとともに子どもたちの遊びや余暇の過ごし方も大きく変化した時代でした。

世代によっては懐かしくもあり新鮮でもある、昭和のおもちゃや雑誌、写真等で、その変遷を振り返ります。

3月

- ・常設展「カメラがとらえた久留米の100年 私の街私の時代」